

平成27年度 終了評価書

研究機関 : エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)

研究開発課題 : 先進的ICT国際標準化推進事業(次世代ブラウザにおける通信環境透過技術)

研究開発期間 : 平成26年度

代表研究責任者 : 貞田 洋明

■ 総合評価(5～1の5段階評価) : 評価4

■ 総合評価点 : 24点

(総論)

1年間という短い期間ながら、効果的な研究開発を行って、実証実験、国際標準化提案、オープンソースソフトウェアのベース構築等着実に成果を出した点が評価できる。

(コメント)

- 1年間の短期プロジェクトであったにもかかわらず効果的な研究開発を行って実証実験や国際標準化提案を実施した。
- 1年という短期間でしっかり成果を出されている点は評価したい。
- 標準化、オープンソースソフトウェアのベースを構築。今後の実装への努力に期待する。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

本研究開発で扱った次世代ブラウザ技術である Web Socket や WebRTC は、標準化の進展によりスマートフォンなどでも利用できるようになってきており、時宜を得た研究開発である。また、災害時応用等のユースケースを明確化することで、国際標準化の動きを加速した。

(コメント)

- インターネットへのアクセスが遮断された状態で、Web ベースで情報交換できることを示し、オープンソースソフトウェア化が可能なレベルまで研究したことは有意義である。
- 災害時応用等のユースケースを明確化することで、高まりつつあった国際標準化の動きを加速した。
- 次世代 Web ブラウザ技術である Web Socket や WebRTC は標準も進みスマートフォンなどでも利用できるようになってきており時宜を得た研究開発である。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

1年間の短い期間であったが、オープンソースソフトウェアの積極的活用により効率的な研究開発、実証、実装を行い、国際標準化提案や研究発表、報道発表など目標を超える成果を着実に導いた点はマネジメント面でも評価できる。

(コメント)

- 1年間の短い期間であったが、効率的に実証・実装の検討をしたことは評価できる。
- オープンソースソフトウェアの積極的活用により効率的な研究開発を行った。
- 短期間であったにもかかわらず、国際標準化提案や研究発表、報道発表など目標を超える成果を着実に導いた点はマネジメント面でも評価できる。

(3) 研究開発目標(アウトプット目標)の達成状況

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

公衆無線LAN環境の制約を考慮した実装を提案し、実証実験や標準化提案を着実に行うなど、目標を超える成果と言える。また、WebRTCの現状の実装の問題点を明らかにするなど、想定以外の知見も得ており評価できる。

(コメント)

- 標準化とオープンソースソフトウェアのベースを作れたことは評価できる。
- 当初目標をすべて達成したことに加えて、現状のWebRTCの実装が主にストリーミング向けに作られており、データ通信の転送速度が出ない問題等を明らかにした。
- 公衆無線LAN環境の制約を考慮した実装を提案し、実証実験もきちんと行うなど目標を超える成果といえる。
- WebRTCの現状の実装の問題点など想定以外の知見も得ている。

(4) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

当初目標では先になる見込みであった国際標準化提案を事業期間内に行った点、実現性の高い通信方式を提案、実装するとともに、将来の公衆無線LANサービスのあり方についても知見を与えるものとなっている点が評価できる。今後は、サイネージへの埋め込みと、災害時の効果が本当に発揮できるような実装を進められることを期待する。

(コメント)

- 当初目標では国際標準化提案は先になる見込みであったが期間内に標準化提案を行うことができた。
- 災害時の情報共有を公衆無線LAN環境下で peer-to-peer に準ずる局所性の高い通信で実現する実現性の高い方式を提案実装するとともに、将来の公衆無線LANサービスのあり方についても知見を与えるものとなっている点が評価出来る。
- サイネージへの埋め込みと、災害時の効果が本当に発揮できるような実装を進められることを期待する。

(5) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた計画

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

W3C における標準化活動を継続するとともに、1年以内のオープンソースソフトウェア化、平成29年度の事業化等、政策目標の達成に向けた計画が確実である点が評価できる。今後は、標準化、オープンソースソフトウェア化とともに、メーカーと連携した実装を期待する。

(コメント)

- 標準化、オープンソースソフトウェア化とともに、実装をメーカーと連携して進めることを期待する。
- 「1年以内のオープンソースソフトウェア化」「2017年度までの事業展開」「IoT/遠隔ロボット操作等の新たな市場分野への見通しを得た」等政策目標の達成に向けた計画が確実である。
- W3Cでの標準化活動を継続するとともに、平成29年度の事業化に向けて検討されている点は評価する。